

せとうち・感動体験クルーズ報告

国土交通省 神戸運輸監理部

総務企画部 企画課長 伊藤政美



(1) 平成20年7月 神戸港発着の国内広域テストクルーズを実施

平成20年7月16日(水)～18日(金)にかけ、(社)神戸経済同友会(以下「同友会」という)企画主催・国土交通省神戸運輸監理部後援による、国際遠洋旅客船「ぱしふいっくびーなす」で瀬戸内海を巡る神戸港発着の国内広域テストクルーズ「せとうち・感動体験クルーズ」(以下「同クルーズ」という)が実施された。神戸せとうちの経済団体、行政機関等による広域観光社会実験(乗員・乗客約500名)である。

(2) テストクルーズ実施のきっかけ

平成19年3月、同友会が「神戸港を瀬戸内海クルーズの母港にしよう」と提言、「地域資源を活用した国内クルーズで地域活性化を図りたい」との情熱と自ら汗をかく覚悟に、神戸せとうちの官民関係者も感銘し、提言からわずか1年3ヶ月でテストクルーズが実現した。

(3) 魅力満載のテストクルーズ 盛大な出港セレモニー

16日、神戸港にて船上からのテープ投げ、神戸港内旅客船の一斉警笛等の盛大な出航セレモニーが行われ、平日にも関わらず、老若男女多数の方々が見送りに参加してくれた。テープ投げは、中高年世代には懐かしさを、幼稚園児たちには思い出を刻んだ。



地元の国行政機関を代表して、
神戸運輸監理部長が挨拶



七色のテープが舞った

船内でのクルーズライフ

航海初日の16日は、映画「瀬戸内少年野球団」等を監督した篠田正浩氏による講演、故夏目雅子氏との秘話等を拝聴した。17、18日は、神戸せとうちの郷土史に詳しい園田学園女子大学田辺真人教授による船内講義。この講義と講義で紹介した史跡を巡るオプションツアー「神戸・せとうち歴史探訪の旅」が、国土交通省ニューツーリズム創出・流通促進事業に採択された。神戸港の歴史、阪神沿線の地名由来など興味深い内容が好評で、急遽、補助席が用意された。



篠田監督の講演会模様



田辺教授の講義模様

寄港地での歓迎セレモニー・オプションツアー

瀬戸田、高松に寄港。瀬戸田は通船で上陸。ウェルカムドリンクにレモンジュースをいただき、地元みかん農家が手作業でみかんをネット詰め、プレゼントしてくれた。高松では、接岸が21時にも関わらず、地元の好意で民謡と踊りによる歓迎セレモニーが開催された。市内を一望できる展望室が23時まで特別開放され、高松の夜景を楽しむ機会にも恵まれた。翌18日は讃岐うどんが提供され乗客・クルー皆でごちそうになった。また、寄港地では、神戸せとうちクルーズにふさわしい、離島、歴史、食文化等の地域資源を活用したツアーが企画され、猛暑の中、地元の観光ガイドや小学生が名所旧跡を案内してくれた。



瀬戸田港



讃岐うどんのおもてなし

船から眺める神戸・せとうちの魅力

船から眺める景色はクルーズこそその魅力であり、乗客は写真撮影を楽しんだ。



国土交通省初の3運輸局連携広域ビジット・ジャパン・キャンペーンを実施

中国、韓国、台湾の旅行エージェントを招聘し、せとうち・感動体験クルーズを活用して、神戸せとうちの魅力を発信する、ビジット・ジャパン・キャンペーンを国土交通省初の3運輸局(神戸運輸監理部、中国運輸局、四国運輸局)と関係自治体連携で実施した。波穏やか島浮かぶ瀬戸内海のクルージング、都市と自然が調和した神戸観光はおおむね好評であった。

(4) テストクルーズを終えて～今後の展開～

同クルーズは、同友会が神戸港起終点のせとうちクルーズに、将来、民間事業者が参入することを期待し実施したテストクルーズである。事業化のためには、初期投資、採算性等の課題もあるが、クルーズは、オプションツアーと相まって、シティーホテルのホスピタリティと優雅な時間、着地型ニューツーリズムが提供する郷土の歴史、文化、味覚等がまるごと楽しめるポテンシャル高い旅行形態である。神戸運輸監理部では、今後も、関係機関との連携を深めながら、神戸せとうちの魅力発信を支援したい。(了)